

脳神経外科 —てんかんセンター—

脳磁図とPET-CTの導入でより高度で精緻な診断が可能になりました



脳神経外科 名誉院長
森野 道晴

当院のてんかんセンターでは、小児から成人（高齢者）まで、**全てのてんかんを**対象とし治療にあたっております。開頭による焦点切除、側頭葉切除、選択的側頭葉切除、迷走神経刺激療法、硬膜下電極留置など**全てのてんかん外科手術**を行っています。特に、難治性てんかんで最も手術適応となる側頭葉てんかんに対し、低侵襲的手術法である「選択的側頭葉切除術」及び「海馬多切術」を中心に行っています。24時間365日、脳神経外科医が常駐し、てんかん患者さんの救急要請にも対応しております。長時間ビデオ脳波モニタリング、SPECTなどを用いた詳細な検査も可能です。また2018年7月より、**脳磁図（MEG）・陽電子放出断層撮影（PET）**を導入し、より詳細な検査・診断が可能となりました。てんかん治療等でお困りの症例がございましたら、当てんかんセンターへご紹介・ご相談をいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

脳神経外科 森野名誉院長が川淵賞を受賞（写真左）

2018年度日本小児神経外科学会での年間優秀論文に与えられる「川淵賞」を第46回日本小児神経外科学会会期中（2018年6月9日）に受賞しました。

論文題名

「小児難治性内側側頭葉てんかんに対する経シルビウス裂到達法による選択的側頭葉切除術の手術手技と治療成績」



消化器内科 —肝臓病チーム—

第2回肝臓病教室を実施

2018年8月4日（土）



消化器内科 門野医師の講義の様子

47名の市民が参加

埼玉県肝疾患診療連携病院ネットワークの地区拠点病院（県北地区）である当院は、第2回肝臓病教室を開催いたしました。

今回は、「脂肪肝」について各専門職より講義を行いました。市民の方からのアンケートでは、肝炎治療に関する情報をもっと知りたいなどの意見を多くいただきました。当院が果たせる役割を認識し、肝臓病関連疾患について広く市民の方に理解を深めていただくことを目的に今後も定期的に開催をしてまいります。（肝臓病教室チーム）

リハビリテーション科

第6回市民公開講座を実施

2018年6月30日（土）



今回で第6回目を迎えたリハビリテーション科主催の公開講座は、**82名の地域の皆様**に参加して頂き盛況のうちに終わることが出来ました。

今回は『姿勢から考える健康』をテーマに3部構成で行いました。

第1部は『腰痛』について、意外と知られていない腰痛のメカニズムと、腰痛予防・軽減のための運動を、楽しいトークとともに紹介しました。

第2部は『尿トラブル』について、尿漏れや頻尿の予防・改善について原因や簡単な運動法について呼吸や姿勢の関連を体験しながら行いました。

第3部は『誤嚥性肺炎』について、名前は耳にしたことあるけど意外と知られていない誤嚥性肺炎について、食事の際の姿勢や食べ方の工夫を言語聴覚士が説明し予防方法としての運動を皆さんで行いました。

今回は初の3部構成でしたが、参加された方からも好評で次回も参加したいとお声もたくさん頂きました。

市民公開講座では、より良い講座を実施するため、毎回アンケートを実施しております。集計結果をもとにさらにバージョンアップした公開講座を開催できるよう準備を進めてまいります。今後とも熊谷総合病院リハビリテーション科主催の市民公開講座を宜しくお願いします。（理学療法士 星野 太郎）



脳神経外科 てんかんセンター

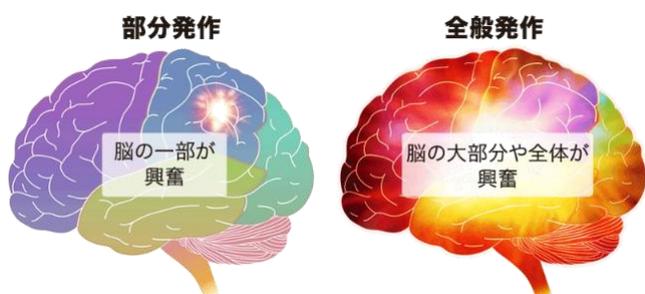
てんかんセンターの役割

てんかん発作を最大限減少（コントロール）させ、副作用を最小限にし、患者さんの生活の質（QOL）の向上を目指します。

医師、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、作業療法士などの専門職によるチーム医療を実践し、安心した日常生活が送れるよう多角的に支援します。

てんかん外科治療とは

抗てんかん薬の服用で抑制できずに慢性化する難治性てんかんに対し、手術により発作を緩和、消失させることによりてんかん発作を止めようとする治療法をてんかんの外科治療といいます。てんかんの種類・発作型によって選択される治療法は異なります。



外科的治療の対象となるてんかん

- ☑ 内側側頭葉てんかん
- ☑ 器質病変が検出された部分てんかん
- ☑ 器質病変を認めない部分てんかん
- ☑ 片側半球の広範な病変による部分てんかん
- ☑ 難治性てんかん

新たに導入した診断機能（2018年7月より）

患者さんの治療方針の選択に有効な**脳機能画像診断機器**を導入することにより、これまで以上に良質な診療・診断を行うことが可能となりました。



PET-CT

脳における糖や酸素の消費量を調べることができ、脳がどの程度機能しているかを調べることができます。

PETは他の検査では見つけることが難しい、てんかんが起る焦点を見つけ、てんかん外科治療の術前検査として保険適用が認められています。



MEG（脳磁図）

脳の活動に伴って発生している微弱な磁場をとらえることで、脳の電気現象をあきらかにする計測機器です。てんかん外科手術の前に、てんかんの原因となっている神経細胞の異常興奮の発生場所の推定や、その周囲にある重要な脳機能（感覚や運動）を調べるために用いられます。また手術治療を予定していない場合でもてんかんの分類・鑑別診断や治療方針を決定するために行われます。



消化器内科のご案内

—消化器内科からのお知らせ—

上部・下部内視鏡の共同利用を開始します

ポイント①

貴院から直接内視鏡の検査予約が可能

ポイント②

ご紹介医療機関からのご依頼の利便性と患者さんの負担を軽減した予約システム

ポイント③

早期がんの発見をサポートする画像処理機能とレーザー光による内視鏡システム



内視鏡共同利用の
お問い合わせは
地域医療連携室まで
048-525-6769



内科・消化器内科診療部長
齋藤 雅彦

平素は貴重な患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。消化器内科は現在8名の常勤医師を中心に患者さんの治療にあたっております。

この度2018年7月PET総合検診棟の開設と同時に内視鏡室もPET棟へ移設となりました。新たな内視鏡機器を導入し、私たちはこれまで以上に早期がんの発見に努め、積極的に地域の先生方との連携を強化していきたいと考えております。

消化器内科では、今年度の新たな取り組みとして内視鏡の共同利用を開始することといたしました。地域の先生方のご紹介による直接検査の予約が可能となり、患者さんの負担軽減と疾病の早期診断・治療に繋げていただくことが目的です。下部内視鏡の前処置は当日の洗腸液のみとし、ご紹介元での下剤処方や検査食も不要です。

共同利用の方法については、地域医療連携室にお問い合わせください。

今後も地域に根差した中核病院として、地域医療の貢献と更なる地域連携を図ってまいりますので、ご指導ご協力をお願いいたします。

消化器内科の
主な対象疾患

悪性腫瘍

- 食道がん、胃がん、大腸がん、肝細胞がん、膵臓がん、胆のうがんなど

良性疾患

- 出血性胃潰瘍、十二指腸潰瘍、大腸ポリープ、肝硬変、慢性膵炎、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、総胆管結石、胆のう結石など

急性疾患

- 出血性胃十二指腸潰瘍、食道静脈瘤破裂、虚血性腸炎、大腸憩室炎、急性胆嚢炎、急性胆管炎、急性膵炎など

当院で行っている主な治療法

消化管疾患

- ・内視鏡治療（ポリペクトミー・EMR（内視鏡的粘膜切除術）ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術））
- ・EVL/EIS 食道静脈瘤治療 ・食道狭窄拡張術 ・食道ステント挿入術
- ・IBD（炎症性腸疾患）の診断・治療（CAP療法、生物学的製剤投与）など

肝疾患

- ・肝炎に対するDAA（経口内服薬）治療、
- ・肝腫瘍へのTAE（肝動脈塞栓術）、PEIT（経皮的エタノール注入療法）、RFA（ラジオ波焼灼療法）

胆・膵疾患

- ・総胆管結石へのEST（内視鏡的乳頭切除術）、採石術
- ・胆道狭窄に対するERBD（内視鏡的逆行性胆管ドレナージ）、ステント留置術、PTBD（経皮的胆管ドレナージ）



医療法人 **熊谷総合病院**

〒360-8567 埼玉県熊谷市中西四丁目5番1号

地域連携室（直）TEL：048-525-6779 FAX：048-525-6769